

親切運動の取り組みについて

学校名 富山市立小見小学校

児童数 10名

1. 親切運動の取組の紹介

「エコキャップを集めてワクチンを送ろう」

本校5・6年生は、総合的な学習の時間にSDGsをテーマとして学習を進めてきた。学習を通して、貧困や食料問題等、世界には解決しなければならない多くの課題があることを知り、児童一人一人が「自分たちにできることは何か」を考えた。調べ学習を進める中で、ペットボトルキャップを回収・寄付することでワクチンに変え、世界の子供たちの命を救う活動につながることを知った。そこで、クラス全員で取り組むことを決め、ペットボトルキャップ回収を行った。また、SDGsに関する取組や、ペットボトルキャップ回収がどのように世界の人々の役に立っているのかなど、活動を通して学んだことや自分たちがこれからも実践していきたいことを、学習発表会を通して伝えた。



学習発表会

2. 親切運動に取り組んで

<取組の成果>

当初は一万個を目標に活動を始め、学校や家庭や地域の方々にも協力を呼びかけた。また、地域のイベントに参加して回収したり地域の方から寄付をしていただいたりしたことで、最終的には一万九千個ものペットボトルキャップを集めることができた。この活動を通して、多くの人の善意が集まることで、大きな力になることを実感した。富山市の回収業者の方に来校していただき、リサイクルの仕組みや大切さ、自分たちにできる地球にやさしい行動について話を伺った。児童は、リサイクルが環境保全だけでなく、社会貢献にもつながっていることを学び、自分たちも社会に生きる一員として、まずは自分ができることから行動する大切さを学び、行動することの意義について考えることができた。



回収業者への寄贈と学習会

当初は一万個を目標に活動を始め、学校や家庭や地域の方々にも協力を呼びかけた。また、地域のイベントに参加して回収したり地域の方から寄付をしていただいたりしたことで、最終的には一万九千個ものペットボトルキャップを集めることができた。この活動を通して、多くの人の善意が集まることで、大きな力になることを実感した。富山市の回収業者の方に来校していただき、リサイクルの仕組みや大切さ、自分たちにできる地球にやさしい行動について話を伺った。児童は、リサイクルが環境保全だけでなく、社会貢献にもつながっていることを学び、自分たちも社会に生きる一員として、まずは自分ができることから行動する大切さを学び、行動することの意義について考えることができた。

<課題と今後に向けて>

本校は少人数での取組であるため、ペットボトルキャップ回収等において、より多くの人に活動の意義を伝える工夫や、活動を継続して行うための仕組みづくりが課題である。今回の取組で得た成果と課題を生かし、今後も身近な行動から社会や環境に貢献できる活動を続けていきたいと考える。